

豊洲新市場から最大
79倍のベンゼン検出

汚染の全面調査、 移転の**中止**を含め抜本的再検討を

共産党都議団が 知事に緊急要望



小池知事

「要望、共有する部分も」
「しっかり考える」

1月14日発表された豊洲新市場予定地の地下水モニタリング最終調査で、環境基準の最高79倍のベンゼンや、シアン化合物、ヒ素など201カ所の観測井戸中72カ所で基準を超えました。この事態を受け、日本共産党都議団は16日、緊急に小池知事に面会し（**上写真**）、要望（**左記**）を申し入れました。申し入れに対し小池知事は、「今回の要望については共有する部分もある」、「しっかり考えていきたい」と答えました。

〈要望項目〉

- ◆これまでの地下水モニタリング調査について、調査会社、調査手法を含め全面的に検証し、都民に公表すること。
- ◆汚染された地下水が上昇して盛り土が汚染された可能性が高いため、盛り土の汚染調査を実施すること。
- ◆これまでの汚染調査、土壌汚染対策工事などについて、専門家会議と異なる見解をもつ専門家を含めて徹底検証をおこない、公表すること。
- ◆当面、築地市場の必要な補修、改善を急ぐとともに、築地市場の現在地での継続を含め、豊洲移転中止について、本格的検討を行うこと。

命・健康守る都政改革へ

今回の結果は、豊洲新市場予定地に環境基準を大幅に上回る汚染土壌、汚染地下水が取り残されていることを示したものです。これまでの3代にわたる知事がすすめてきた土壌汚染対策は破たん状態と言わざるをえません。食の安全、命と健康を守る都政改革へ、全力をあげます。

日本共産党

東京
民報

ご意見・ご要望は 03-3370-0311、FAX 03-3370-0471

2017年1月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。

発行 / 東京民報社（港区芝1-4-9 平和会館5階）1965年11月12日第三種郵便物認可